



山大病院だより



特集

キャリアナビゲーション in 山大病院 開催報告

この度、6月8日と6月22日、共に18時から、医心館食堂にて、医学生・研修医を対象にした進路や教室の紹介のイベント「キャリアナビゲーション in 山大病院」を開催いたしました。これまで各診療科の説明会は個別に開催されていましたが、一同に会し、テーブルを囲んで、興味を持った学生や研修医に、診療科の魅力や入局後のコースなどを説明する、というのは初めての試みでした。

両日で計125名の学生・研修医が集い、普通の大きさの声では、聞こえにくいほど熱気にあふれ、大変盛況でした。日常診療に追われて多忙な先生方が、講座ごとに工夫して作ったスライドやポスターを背に、皆さんとてもにこやかに楽しそうに話をされている姿がとても印象的でした。

参加者のアンケートでも「心配していたことに端的に答えて頂き、とても参考になりました」「同じ女性として生活スタイルなど大変参考になりました」「いろいろな科のお話を聞けるのが良かった」など大変好評でした。

また次回、秋に開催を計画しております。最後になりましたが、ご後援をいただきました医学部同窓会霜仁会、会場設営等でご協力頂いた山口大学生協の皆様には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

医療人育成センター 原田唯成

山大病院 NEWS

ホットなニュースをご紹介します。



大規模災害に備えた合同訓練に参加しました。

6月15日、大規模災害における災害対応力の向上を図るため、県災害対策本部の応急対応に係る図上訓練と、災害現場における救助救急機関の連携に係る実働訓練を並行して実施しました。

実働訓練は、山陽小野田市と宇部市にまたがる小野田・楠企業団地で行われ、県のほか、県警や消防、自衛隊、災害派遣医療チーム(DMAT)など約260人が参加し、当院からはドクターヘリおよびDMATチームが訓練に参加しました。

午前8時56分に南海トラフを震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、県東部で最大震度6強を記録し、最大4メートル程度の津波が到達したとの想定で、生き埋め救助、がれき救助、都市型救助(ロープレスキュー)、航空救助が実施されました。

なお今回の訓練は、災害現場における対応力や即応力を養成し、また、関係機関相互の「顔の見える関係」の構築を図るため、事前に訓練シナリオ等を明らかにしない防災プラットフォーム型の実践的訓練を、関係機関合同で行ったものです。

当院DMATチームは、DMAT本部の役割を務め、DMAT本部隊長の当院笠岡准教授の指示のもと、参加した県内12のDMATチームは、真剣に取り組んでいました。



山口県大規模災害図上訓練・救助機関等合同実働訓練に参加して



山口大学医学部附属病院
先進救急医療センター
山口県統括DMAT
笠岡俊志

来るべき大規模災害に備え、連携を強化する目的で実働訓練が実施されました。山口大学病院をはじめ県内DMAT12チームが訓練に参加し、DMAT現場本部の設置、現場救護所の設営および傷病者の搬入・搬出、DMATの現場投入など大変有意義な訓練を経験できました。災害現場における救助・搬送・医療の連携は重症傷病者の救命に不可欠であり、関係機関の緊密な連携を促す合同実働訓練の定期的な開催が望まれます。



総務課企画・評価係
山口大学DMAT隊員
奥谷信也

私は、今年の2月に災害派遣医療チーム研修に参加しました。EIMS、トリアージ、衛星電話等聞き慣れない言葉ばかりでしたが、何とか修了することができ、晴れて日本DMAT隊員となることができました。

今回の訓練では、山口大学DMATは、主にDMAT本部の運営を行いました。ブラインド訓練ということもあり、訓練開始直後は本部運営が上手く機能しませんでした。時間が経つにつれ、円滑に機能させることができました。

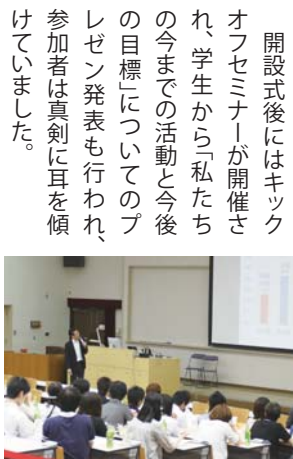
私は初めての实働訓練ということもあり、EIMS・衛星電話等使用方法、活動記録等、様々な問題点・改善点が見つかりましたので、実際に災害が発生した時には素早く活動できるよう、日頃から準備・訓練等を積み重ねていきたいと思います。

「地域医療支援センター」開設式



このたび、山口県内の医師不足を解消することを目的として、県地域医療推進室と本学医学部に「山口県地域医療支援センター」が設置され、7月10日に開設式が行われました。このセンターは、医師不足の公的医療機関等への医師の効率的な配置や、配置される医師のキャリア形成支援を行うことを目的としており、山口大学は医師のキャリア形成支援や情報発信の業務を担います。

センター長には、県健康福祉部の岡紳爾地域医療推進室長が就任され、山口大学医学部の教授と准教授が専任医師として従事します。開設式には、山口県知事代理として岡田実副知事、丸本学長をはじめ学内外関係者ほか医学部生70人が出席し、丸本学長から「医師不足は重大な課題です。センターが医師不足解消の基盤となるように期待します」と挨拶があり、副知事から学長へ看板が贈呈されました。



Report

イベント・レポート

様々な出来事をご紹介します。



新人研修医(医科)にインタビュー!!



人

山口大学医学部附属病院に
まつわる方々を紹介します。

- Q お名前は?
- A 佐々木征弘
- Q 性別は?
- A 男
- Q 血液型は?
- A O型
- Q 出身地は?
- A 山口県周防大島
- Q 地元自慢を
おねがいします!
- A 夏は海水浴、冬はミカン狩りできます!
- Q 小さな頃から、
なりたかった職業は?
- A 医者
- Q ところで、犬派?ねこ派?
- A 犬派
- Q 趣味は?
- A 読書
- Q 好きなスポーツは?
- A 卓球。中・高・大とやっています。
- Q 仕事をしている中で、
楽しいことは?
- A (うれしいこと)は、患者さんにありがたうと言ってもらえることや、つばりうれしいです。
- Q 反対に、
苦しいこと(辛いこと)は
ありますか?
- A 研修中だと2、3ヶ月で科が変わるので、なれるまでが大変です。
- Q さいごに:
どんな医師を
目指されていますか?
- A 患者さんから頼りにされるよう日々精進していきたいと思います。

病院優良従業員表彰を受賞

平成24年度



受賞者の倉田看護師長、板垣看護師長、川村看護師長(前列右から)を囲んで記念撮影

板垣智恵子看護師長および川村和美看護師長が、社団法人山口県病院協会から、県内の病院に従事する勤務成績の優秀な方を表彰する「病院優良従業員」を受賞され、6月28日、病院長室において伝達式が行われました。

岡病院長から板垣看護師長、川村看護師長両人に表彰状と記念品が手渡され、永年の功労に対する敬意並びに今後のさらなる活躍を期待する旨の祝辞が述べられました。

あわせて、倉田町恵看護師長から、6月17日に「山口県健康福祉功労者看護職員」として知事表彰を受賞されたことについての報告がありました。

また、この席には花田看護部長、阿部事務部長も同席し受賞を祝いました。

世界禁煙デーにあわせて 吸い殻クリーン作戦を実施しました



本院では、平成22年4月から医学部・附属病院の敷地内を全面禁煙としたことに伴い、世界禁煙デーである5月31日、また5月31日から6月6日までの禁煙週間*1に合わせて、毎年吸い殻クリーン作戦を実施しています。

6月6日、岡病院長、花田看護部長をはじめ医学部附属病院労働安全衛生委員会メンバーを中心とした職員らが参加し、学部内・院内の吸い殻やゴミなどを拾い集めました。

本院では、今後も医療機関として、患者の皆さまをはじめとして本院に来院される全ての方の健康に配慮し、禁煙活動・禁煙運動を推進してまいりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

*1 日本では、1992年(平成4年)より、5月31日から6月6日までの一週間を禁煙週間としてします。

第3回ドクターヘリ事例報告会を開催

7月7日(土)15時から、医学部第3講義室において、第3回ドクターヘリ事例報告会を開催し、県内の消防機関及び救急指定病院などから、合わせて約90人が参加しました。

この事例報告会は、ドクターヘリの過去の出勤事例について担当消防機関及び本院医師それぞれの立場から評価等を行い、ドクターヘリへの理解を深め今後の円滑な運航に活かすことを目的としており、毎年、県内の消防機関や救急病院等を対象に開催しています。

当日は、岡病院長から「事例報告を今後のドクターヘリ運航に活かしてほしい」との挨拶、笠岡准教授による実績報告があった後、萩市消防本部から「二次ランデブー方式を用いた多発外傷事例」、山口市消防本部から「現場直近でランデブーした交通外傷事例」、宇部・山陽小野田消防局から「ドクターヘリ搬送を行った心肺停止事例」について報告があり、担当医師らからコメントが述べられた後、参加者との間で活発な意見交換がなされました。報告会の最後には、フライトナーズからドクターヘリと救急隊との情報共有の大切さについて報告があり、参加者にとって大変有意義な報告会となりました。



地域医療だより

平さんの棚田「見た人に頑張る力を」

上関・祝島



島の原野の中に忽然と現れる平さんの棚田(石垣6段、高さ計38メートル)。「天空の棚田」とか、「城壁」などとも呼ばれて全国から沢山の方々が見に来られます。港からは徒歩で一時間と少し掛かります。

地域医療推進学講座の中村です。

今回のテーマは、「棚田」です。山口県は棚田王国で、日本の棚田百選にも選ばれた油谷町の棚田や、萩市見島の棚田などが有名です。また、棚田は癒し系の風物として日本全国で静かなブームを呼んでいます。しかし、これらの通常の棚田とは違い、異彩を放っているのが「平さんの棚田」です。見た人に元気を与える硬派な棚田です。平さんの棚田の凄いところは、その規模や石垣の正確さや美しさのハード面もさることながら注目すべきは「人」にあります。理由を集約しますと以下の3点です。

①親子3代で島の原野の中に棚田を築き上げたこと、②重機を一切使用していないこと、③孫の代(現在の平万次さん)には稲作を止め、棚田を島の原野(自然)に戻すように初代亀次郎さんから遺言されていることです。稲作の時代は終わると予見されていたようです。万次さんのお子さんたちは既に島を出られており、農業を継ぐ当てもないため、この棚田が「幻の棚田」となるのは時間の問題といわれています(平万次さんは昨年で引退を宣告しておりましたが、もう一年は稲作を頑張るそうです)



平万次さんと筆者(右)。平さんは79歳ですが、まだまだお元気です。道端でいろいろ話をしてくれました。戦中は戦艦大和の主砲の発射訓練がこの海域でされていたらしく、それを島の上から見ていたそうです。

【地域医療推進学講座、中村浩士】

問題 写真の棚田を重機を用いず、人力だけで作るにはどうすればよいでしょうか?石は重く、下から上へ持ち上げることは出来ません。

答え 山頂の石切り場で適切な石を選別し、ひとつずつ斜面を滑らせて目的の部位に組み入れることで石垣を組んでいったそうです。

このたび

地域医療教育研修センターの愛称「白翔館」の看板が新たに設置されました。



すぐ使える
豆知識
コーナー

ハーブを使ったまめめ情報

< 新米ママさん必見?の巻 >



●使用ハーブ→ジャーマンカモミール

★おむつかぶれ…カモミールティーをガーゼに湿らせてふいてあげてください。

★夜泣き……入浴時、沐浴剤としてカモミールティー適量を混ぜてみてください。

※キク科のアレルギーのある人は合わない場合があります
by おむつかぶれ&夜泣きで育児疲労だった編集者Mママ♪

SCHEDULE

患者相談対応研修

- 日 時 8月10日(金) 17:15~18:30
- 場 所 第三講義室
- 対象者 コメディカル職員、事務職員

コーチング研修

- 日 時 9月25日(火) 9:00~17:00
- 場 所 基礎研究棟カンファレンス室
- 対象者 コメディカル職員

お知らせ (TV放送)

Announcement

「山口から世界へ!」世界をリードする最先端の研究をわかりやすく地域へ紹介!!

「医進! 前進! ~山口大学医学部研究室探訪~」

放送日 毎週水・土・日曜日
11:45~12:00、20:00~20:15
※放送時間は、変更される場合があります。

放送局 山口ケーブルビジョン(ケーブルTV)
上記時間帯にて、絶賛放送中!!

ご意見・ご要望をお待ちしています!!

新年号からリニューアルした本誌「山大病院だより」。

今後、ますます充実した誌面にしたいと考えておりますので、読者である皆さまからの活発なご意見・ご要望をお待ちしています。

- こんな情報を取り上げてほしい
- こんな特典があれば嬉しい
- このコーナーが面白かった/面白くなかった etc.

ご意見・ご要望は **FAX** 0836-22-2113
こちらへ **E-mail** me202@yamaguchi-u.ac.jp

● 編集担当
(総務課・総務係: H.N・M.A)

編集
後記

梅雨も明け、暑い夏がやってきましたね~。
皆さん、夏バテには注意しましょうね♪
さて、今号はいかがでしたでしょうか?
まだまだ充実した誌面とは言えないかもしれませんが、
今後も色々な情報を追加できればなあ、と思っております。
皆さんからも、「こんな情報が欲しい!」とか「この人を誌面で紹介してあげて!!」等ありましたら、総務課総務係までご一報ください♪(・∀・)b
では、また2ヶ月後の本紙で~♪(・∀・) /

